

# 大館の歴史散歩

火内の山々 ⑨

## 獅子ヶ森 (下)

今回は獅子ヶ森の概観を述べた。その中で、山名の由来について「すすきが森」が「ししが森」に転化したという説も紹介したが、私たちは「すすき」が「しし」にどうすれば転化するのか、どのように転化したのか、どうして転化できたのかを見いだせなかったし、この説には納得できなかった。

今回は、山名起源について日景健氏の研究(地名覚書「獅子ヶ森のこと」) 釈迦内史談会発表



下代野の獅子踊り

要旨)に導かれながら、修験と地域信仰との関係から追ってみたい。  
獅子ヶ森北側の峰中に、中世以前(おそらくは松峰開山と同じころ)に修験の修行場であったと考えられる「権現岩」と呼ばれる岩場がある。この権現と獅子との間に強い結び付きを想定できれば、山名起源に近づくことができるのでは、という立場である。

菅江真澄の『辞夏岐野芥望図』(しげき山本)の七座山の条に、「大なる巖のつらを獅子頭に造りなしたるを、円仁大とこのしたまう権現さまとて、くじうとさらにたふとめり」(『菅江真澄全集』より 傍点、カッコは筆者注)とあって、獅子頭に似た大岩を権現さまと里人が尊んでいるという。  
大館地方でも獅子踊りの獅子頭を「権現さま」と呼んでいる事実がある。獅子踊りは長木川下内川筋に集中し、獅子ヶ森を望む代野、商人留、釈迦内、松木、沼館にも分布している。修

験場であった「権現岩のある山」が、獅子頭を権現さまと呼ぶことと習合して「獅子の山」と意識されるようになった蓋然性は高いと考えられる。獅子ヶ森の森は、達子森のそれと同義で平野に突き出た高い所を指し、「権現」獅子」岩のある高い所ということであろう。

獅子と権現の結び付きの傍証の一つに、鹿角市尾去沢獅子の沢の「獅子堂」縁起を挙げるこゝとができる。その昔、里人を不安に陥れていた怪鳥を獅子大権現が退治した。その大権現を具現化したのが獅子頭の形をした大岩で、これを神石として祀ったのが獅子堂であるという。(『尾去沢大森親山獅子大権現御伝記』) 米代川流域における権現と獅子との習合は、かなり根強かった

と考えられる。  
また、獅子踊りの職能の一つに雨乞いがある。獅子ヶ森も周辺村落の雨乞いの場所であった。十二所の別所には「獅子の滝」と呼ばれる雨乞いの滝がある。山中の大岩で、滝で、神を信じ祈る人々の姿を想い浮かべることができよう。獅子踊りと強く結びついていた雨乞いの場が、獅子の場所として里人になじみ、地名起源となったと考えるのは強引に過ぎるであろうか。  
獅子ヶ森の山名については、原型を修験に置きながら、権現と獅子との習合の中で、里人の雨乞い信仰ともあいまって、地域になじみ、根付いてきたと考えられるものである。

### 市役所史跡探訪会

お寄せください  
市長への手紙

市では、大館が飛躍するため「……をもっとこうしたら」「新たにこんなことをやったら」など、皆さんが日ごろ考えていることを述べていただきたいと思い、一月一日号広報に「ハイ！私からちょっと一言——市長への手紙」を折り込みました。どんなことでもかまいません。大ゲサに考えず、気軽に書いてお送りください。  
※切手はいりません(六月三十日まで有効)  
問い合わせ  
企画調整課広報統計係  
☎ 49-3111(内線268)

## 私の本棚

中央図書館新着図書

### 『続 そして、死刑は執行された』

合田 士郎 著 恒友出版



私たちの知らない塀の中の実態を告白する、元無期懲役囚による体験手記。続編。

◆「NHK特集」を読む(小林紀興) ◆ 駕籠に乗る人担ぐ人(早坂茂三) ◆ 考証春日局(高橋富雄ほか) ◆ 医者が患者に見放されるとき(水野肇) ◆ 一等三角点百名山(一等三角点研究会) ◆ 子どもと家族(奥村晶子ほか) ◆ 空飛ぶ母子企業(三田公美子) ◆ 耳の中の声(佐藤愛子) ◆ 続・閑話一滴(水上勉)ほか

◆ 児童書 ◆ カマキリと月(P・マーグリート) ◆ 日本の恐竜(長谷川善和) ◆ アルプス動物記(全10巻)(椋鳩十)ほか

1月のテーマ関連図書コーナー  
「世界の正月」  
親子読み聞かせ会  
毎週金曜日午後2時30分から  
中央図書館の休館日  
1月16日・26日、2月11日・19日